

船舶事故調査報告書

平成23年5月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲也

委員 石川 敏行

委員 根本 美奈

事故種類	衝突
発生日時	平成22年5月6日 12時30分ごろ
発生場所	兵庫県姫路市家島港 尾崎鼻灯台から真方位126° 220m付近 (概位 北緯34° 41.0′ 東経134° 32.3′)
事故調査の経過	平成22年10月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 貨物船 第二十五 ^{ほうしょう} 宝 祥丸、494トン 134187、宝祥海運建設株式会社 69.02m×13.00m×7.60m、鋼 ディーゼル機関、736kW、平成8年11月 B 石材・砂利採取運搬船 第五十二 ^{みょうりき} 明 力丸、400トン 131846、株式会社ウメサキ 57.0m×12.0m×6.0m、鋼 ディーゼル機関、736kW、平成元年7月
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 36歳 四級海技士（航海） 免許年月日 平成8年12月5日 免状交付年月日 平成18年4月11日 免状有効期間満了日 平成23年12月4日 B 船長B 男性 57歳 五級海技士（航海） 免許年月日 昭和53年4月21日 免状交付年月日 平成22年11月4日 免状有効期間満了日 平成27年11月3日
死傷者等	なし
損傷	A 右舷船尾部に凹損 B 船首部に凹損
事故の経過	A船は、家島港の尾崎鼻南東側において、両舷錨を使用して船尾から係留索2本を取り、船尾係留をしていた。 A船は、乗組員が全員上陸した状態で係留中、平成22年5月6日12時30分ごろ、B船が衝突した。 B船は、船長Bほか2人が乗り組み、家島港において、両舷錨を使用

	し、船尾から係留索を取って係留作業中、船首が南南東風により左方に圧流され、6日12時30分ごろ、B船の船首部とB船の風下に当たる左舷側で係留中のA船の右舷船尾部とが衝突した。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南東、風力 6 海象：潮汐 下げ潮中央期 神戸海洋気象台が5月6日11時35分瀬戸内海に海上風警報、15時34分播磨南西部に強風、波浪注意報を発表	
その他の事項	A船は、5月の連休中であつたので、乗組員が全員上陸していた。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	A なし B 不明 A なし B 不明 A なし B あり A船は、家島港の尾崎鼻南東側において、両舷錨を使用して船尾係留中、B船と衝突したものと考えられる。 B船は、家島港の尾崎鼻南東側において、両舷錨を使用して船尾係留作業中、風力6の風を右舷船首方向から受けて船首が左方に圧流されたことから、風下側で係留していたA船と衝突したものと考えられるが、B船から詳細な情報を得ることができなかったことから、衝突時の操船状況等については明らかにすることができなかった。
原因	本事故は、家島港の尾崎鼻南東側において、A船が両舷錨を使用して船尾係留中、B船が両舷錨を使用して船尾係留作業中、B船が、風力6の風を右舷船首方向から受けて船首が左方に圧流されたため、風下側のA船と衝突したことにより発生したものと考えられる。	